

(4)高齡者福祉：高齡者福祉の充実

村が考える住民の皆さまの幸せのかたち

「高齡者の外出機会、生きがいづくり」
「老人クラブだけではない交流の機会」

施策の目的

高齡者が自立して生きがいを感じながら日々の活動に取り組める、健康で社会参加の機会がある村を目指します。

現状を踏まえた課題

- ・高齡者が就業を通して自己の労働能力を生かし、生きがいを持って社会参加ができる機会の充実が求められています。そのような中、本村ではシルバー人材センターを中心として、高齡者が活躍しています。
- ・高齡化の進展とともに独居世帯や高齡者のみの世帯の増加や、認知症高齡者の増加に伴う、さまざまな課題への対応が求められています。

▶取り組みの体系

【高齡者福祉】 高齡者福祉の充実	生きがいと居場所の創出
	生活支援の充実
	交流機会の充実
	給付制度のあり方の検討

主な取り組み

① 生きがいと居場所の創出

シルバー人材センターの活用による就労支援や施設等における担い手づくり、老人クラブ活動への支援により、一人ひとりの高齡者が生きがいを持って活躍できる機会の充実とともに、互いが支え合い安心を醸成していけるようなネットワークの構築に向けて取り組みます。

また、閉じこもり対策としての居場所づくりを進めます。

② 生活支援の充実

A コープ等の村内の商業施設と連携を図り、敬老センター買い物バス、くらしのおたすけ隊を導入した買い物支援に取り組むことに加え、販売車等、より充実した買い物支援を検討します。また、運行事業者との調整のもと、医療機関への移動支援を含めた、高齡者向けの移動支援を行います。

さらに、独居高齡者を対象とした食事の確保を進めるなど、生活支援に取り組みます。

③ 交流機会の充実

敬老センターにて子どもとの交流機会を充実させ、双方の理解・経験を深めます。また、村内施設の見直しを進める中で、高齢者と子どもの交流等の体験型イベントに対応した場を創設するとともに、イベントの実施を推進します。

④ 給付制度のあり方の検討

長寿奉祝金、敬老祝金、すこやか商品券の配布について、制度のより良いあり方について検討を進めます。

計画指標	基準値 (令和3(2021)年度)	目標値 (令和9(2027)年度)
① 高齢就労者数(シルバー人材センター登録者数) ・令和3(2021)年度の実績(90人)を令和9(2027)年度までに約10%(10人)増やすことを目標とします。	90人	100人
② 給食サービス配食件数 ・令和3(2021)年度の実績(2,462食)を令和9(2027)年度には約10%(238食)増やすことを目標とします。	年2,462食	年2,700食
③ 高齢者と子どもの交流機会やイベント ・令和4(2022)年度の実績(年1回)を継続します。	年1回 令和4(2022)年度の実績	年1回
④ 給付制度のあり方の検討 ・令和9(2027)年度までに検討を進め、以降の施策に反映します。	—	検討済

住民・行政の協働に向けて

▶**行政**：高齢者が住み慣れた地域で、安心して自立した暮らしができるよう、支え合いの体制づくりを推進します。

▶**住民**：高齢者への支援や地域における見守りを進めます。